



# ハナビラタケ

## 空調栽培マニュアル（第2版）

ハナビラタケは、初夏から秋にかけてマツなどの根元や切り株に発生します。子実体は独特の形状をしており、食感や風味も優れていることから、他のきのこ類との差別化が容易です。また、他のきのこ類と比べて高い温度で子実体の発生が可能のため、空調施設栽培において夏場の電力削減が可能です。



## ハナビラタケ空調栽培マニュアル （第2版）

2023年3月発行

編集・発行：三重県林業研究所  
〒515-2602 三重県津市白山町二本木3769-1  
TEL 059-262-0110 FAX 059-262-0960  
E-mail: ringi@pref.mie.lg.jp  
<http://www.pref.mie.lg.jp/ringi/hp/index.htm>



三重県林業研究所

# ◆ ハナビラタケ栽培工程(空調栽培) ◆

## 培地作製



カラマツおが粉に飼料用大麦等の栄養体、菌糸活性化材を混合し、含水率を68%前後に調整します。

## 袋詰め

1日



ポリプロピレン製の袋に培地を2.0kg程度詰めます。

## 殺菌



培地内の温度を118℃以上で1時間程度維持し、培地内の害菌を殺菌します。

## 放冷・接種

1日



クリーンな条件下で1晩放冷した後、ハナビラタケ種菌を接種します。

## 培養

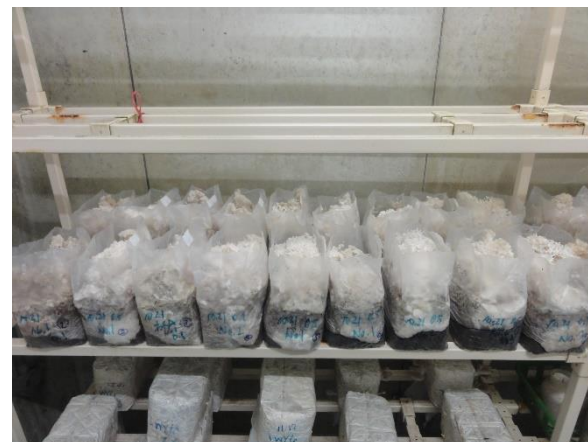
2ヶ月程度



温度20~24℃、湿度70%程度の明条件下で2カ月程度培養します。

## 発生処理

1日



袋内で十分に菌糸塊が発達した菌床を発生室に移動し、袋の上部を切り離します。

## 発生



温度20℃、湿度98%前後の明条件下でこの生育を促します。

## 収穫・出荷

1日



接種から収穫までの期間は70日前後で、子実体の発生量は1菌床(2.0kg)あたり600g程度です。

種菌の種類によって、発生量、栽培期間等は異なります。